

# 第1章 研究の基本的な考え方

## 1 研究のねらい

いじめ問題は、現代の社会や文化の複雑な問題の縮図であり、その解決のためには学校の内と外の問題を構造的にとらえる必要がある。先行研究やこれまでの事例からの提言を踏まえて、「いじめ」の構造を新しい視点から究明し、いじめ解決の方策を探り、生涯学習社会の実現に向けて、学校、家庭、地域社会及び行政機関等への提言をする。

## 2 問題のとらえ方

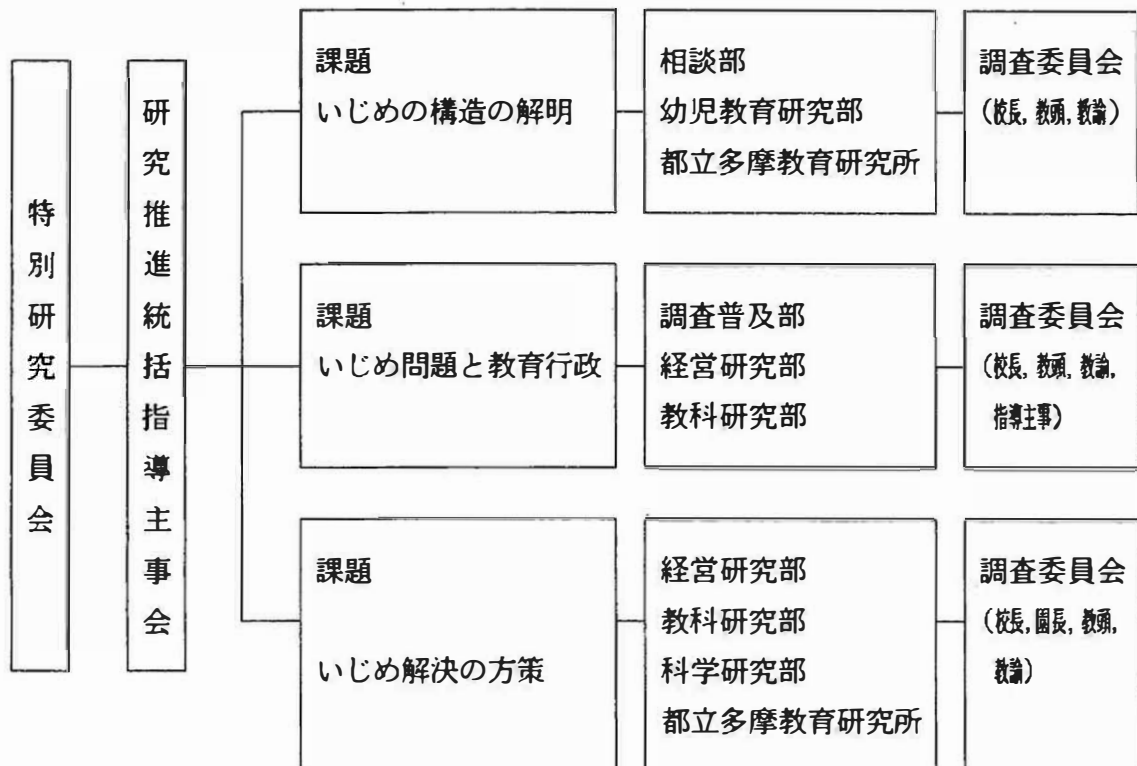
いじめ問題を現象面にとらえるのではなく、人権を尊重する真の人間教育が学校教育の中に十分に浸透していない現状があるとの認識に立ち、学校の存在の原点を問い、すべての子供の学習する権利を保障し、安定した学校生活を送ることができるようにする。

## 3 研究推進のための手法

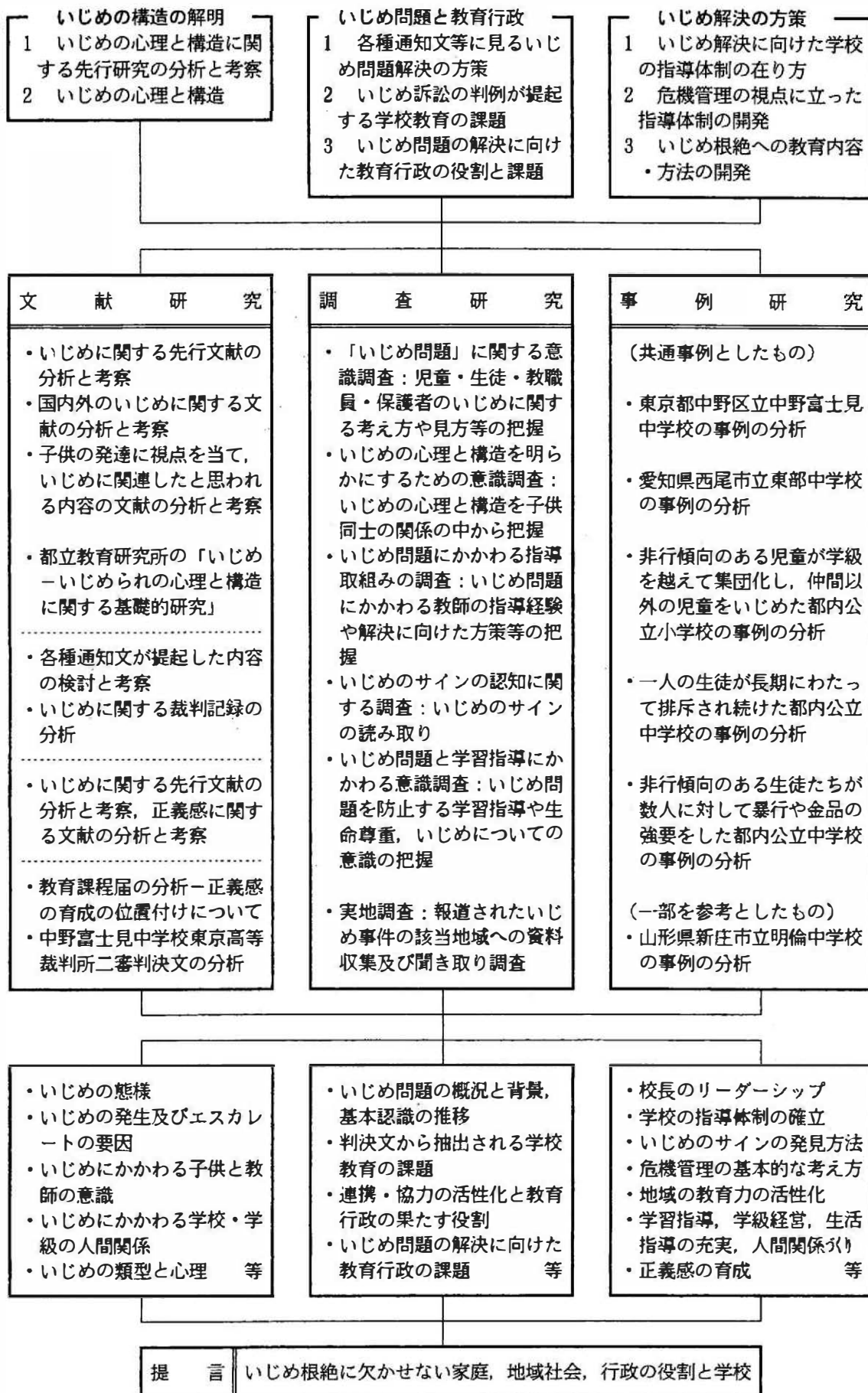
先行研究及び事例の分析を深め、子供や教師の悩みを共有することから打開策を探究するとともに、いじめ根絶のための学校の運営組織を確立する道筋を明らかにする。

## 4 研究の全体組織

本研究を全所的に取組むため、次に示すような研究体制を採った。



## 5 研究の構造図



## 6 報告書を読むに当たって

### (1) いじめの定義について

本研究のいじめの定義は、「同一集団内で単独又は複数の成員が、人間関係の中で弱い立場に立たされた成員に対して、身体的暴力や危害を加えたり、心理的な苦痛や圧力を感じさせたりすること」とした。

### (2) 事例研究について

本研究を進めるに当たって、東京都中野区立中野富士見中学校（事例Ⅰ）と愛知県西尾市立東部中学校（事例Ⅱ）は、研究推進上の視点を見出すために活用した。また、研究の仮説を検証するために3事例（事例Ⅲ～Ⅴ）を活用した。報告書の文中に、事例Ⅰ・・・事例Ⅴと示した記述がある。それは、以下のことを指している。

#### ・「事例Ⅰ」：東京都中野区立中野富士見中学校

- 〈参考資料〉①「葬式ごっこ」朝日新聞社会部編  
②「葬式ごっこ－八年後の証言」豊田 充著  
③東京高等裁判所二審判決文

#### ・「事例Ⅱ」：愛知県西尾市立東部中学校

- 〈参考資料〉①学校が公表した「行動記録」  
②総力取材「いじめ事件」毎日新聞社会部編  
③「清輝君がのこしてくれたもの」中日新聞本社社会部編  
④朝日新聞及び中日新聞

#### ・「事例Ⅲ」：都内公立小学校

〈概要〉非行傾向のある児童たちが、学級を越えて集団化し、自分たちの仲間集団以外の児童をいじめた。

#### ・「事例Ⅳ」：都内公立中学校

〈概要〉一人の生徒が、長期にわたって学級全体あるいは学年にまたがる大きな集団から排斥され、孤立させられて抵抗できなくなった。

#### ・「事例Ⅴ」：都内公立中学校

〈概要〉非行傾向のある生徒たちが、自分たちの仲間である力の弱い数人の生徒に暴行、金品の強要を迫ったため、数人の生徒が不登校や家出をすることになった。

本報告書の中では、この他にいじめの構造をとらえるための事例やいじめの解決の方策を探るための実践事例等を収集し、研究課題に迫っている。

### (3) 調査研究について

本研究を進めるに当たって、いじめにかかわる各種の調査を実施した。調査の主なものは、下記のとおりであり、本文中に調査A、調査B・・・との記載は、以下に示した調査を指している。ここに記した以外にも、学校の管理職、教師、教育委員会の指導主事等を対象に聞き取り調査を実施している。

#### ・「調査A」：「いじめ問題」に関する意識調査

〈趣旨〉児童・生徒、教職員、保護者のいじめに関する考え方や見方等の意識の状況を把握するための質問紙調査

- 〈対 象〉東京都の公立小学校，中学校，高等学校，盲・ろう・養護学校の児童・生徒，教職員，保護者（小学校，小学部の児童は，5，6年生を対象）
- 〈回収数〉児童・生徒 1,781人，教職員 461人，保護者 1,534人
- 〈時 期〉平成7年6月中旬～平成7年7月中旬
- ・「調査B」：いじめの心理と構造を明らかにするための意識調査
    - 〈趣 旨〉いじめの心理と構造を子供同士の人間関係の中で明らかにするための質問紙調査（個別の聞き取り調査のための基礎資料）
    - 〈対 象〉東京都の公立幼稚園，小学校，中学校の幼児・児童・生徒及び教師
    - 〈回収数〉幼児・児童・生徒 2,602人，教師 123人
    - 〈時 期〉平成7年6月～平成7年7月
  - ・「調査C」：いじめ問題にかかわる指導，取組みの調査
    - 〈趣 旨〉いじめ問題にかかわる教師の指導経験や学校の相談・指導体制，解決のための学校間の連携，地域とのネットワーク，正義感の育成についての意識を把握するための質問紙調査
    - 〈対 象〉東京都の公立幼稚園，小学校，中学校，高等学校の教師
    - 〈回収数〉教師 455人
    - 〈時 期〉平成7年6月～平成7年7月
  - ・「調査D」：いじめのサインの認知に関する調査
    - 〈趣 旨〉いじめのサインの読み取りに関して事例研究で得られた知見を補強するための質問紙調査
    - 〈対 象〉東京都の公立幼稚園，小学校，中学校の教師
    - 〈回収数〉教師82人
    - 〈時 期〉平成7年7月
  - ・「調査E」：いじめ問題と学習指導にかかわる意識調査
    - 〈趣 旨〉いじめ問題を防止するための学習指導にかかわって，生命尊重の意識，授業についての意識，いじめについての意識の実態を把握するための質問紙調査
    - 〈対 象〉東京都の公立小学校，中学校の児童・生徒及び教師（小学校児童は，4～6年生対象）
    - 〈回収数〉児童・生徒 1,957人，教師 100人
    - 〈時 期〉平成7年7月

#### (4) 表記について

- ・区市名は，本報告書全体を通して統一し，A，B，C・・・で表した。
- ・学校名は，各節ごとに統一して表記した。
- ・児童・生徒名は，同一事例内で統一して表記した。
- ・文献等からの引用部分は，「           」で示し，各節ごとに(註1)(註2)・・・で示した。各節の最後に引用文献等の一覧を載せた。
- ・参考文献は，巻末にまとめて載せた。